

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

性格と恋愛にみる血液型効果

2008年2月

情報学部 広報学科 3年

松崎 宏美

性格と恋愛にみる血液型効果

松崎宏美

目次

第1章 研究の概要	・・・ 3
1. 1 研究の背景と目的	・・・ 3
1. 2 研究の方法	・・・ 3
(1) 進捗経緯	
(2) 調査の概要	
1. 3 成果の概要	・・・ 5
(1) 血液型と性格イメージ	
(2) 恋愛相性	
(3) その他の主な結果	
第2章 研究の成果	・・・ 8
2. 1 回答者の概要	・・・ 8
2. 2 血液型性格判断の利用状況	・・・ 9
(1) 血液型性格判断の適用	
(2) 血液型性格判断の性差	
(3) 血液型性格判断の実利用	
2. 3 血液型と性格	・・・ 12
(1) 血液型と性格イメージ	
(2) 血液型と実性格	
(3) 性格イメージと実性格の比較	
2. 4 恋愛にみる血液型相性	・・・ 15
(1) A型	
(2) O型	
(3) B型	
(4) まとめ	
第3章 まとめと今後の課題	・・・ 19
参考文献	・・・ 21
資料1 調査の単純集計結果	・・・ 22

第1章 研究の概要

1. 1 研究の背景と目的

血液型と性格あるいは行動特徴との間に、ある種の関連があるという説は、信じない人もいるかもしれないが、人々の間に広く浸透しているように見える。しかし、こうした説は、科学的に実証されていない「俗説」であるとされている。(丹治哲雄、1993年)

それでは、このような説が「俗説」であるにも関わらず、信じる人が出てくるのはどうしてなのだろうか。少なからず、血液型と性格についての関連性が、実際の生活の中で現れているからではないのだろうか。

「履歴書の一項に『血液型』を追加、新採用者の性格を知る為、各方面に応用の機運」という見出しで、新聞がでたことがある。これは、昭和5年の11月末の話であるが、75年以上前から、血液型と性格の関連性は注目されていたことを示している。およそ20年前の毎日新聞でも「え！！血液型で求人 新差別、生む恐れ」という記事を掲載しており、血液型からその人の性格や人柄を考えるという傾向は、現在でも続いてきていると予想できる。

また、日常生活で血液型判断がよく利用されているものとして『恋愛』に関連したものがあげられると考えられる。カップル成立前からカップル成立後、そしてカップルの別れ方において、多少の差はあるとしても、血液型をその理由にあげる人は多いはずである。

そこで、カップル成立の条件を見ながら、血液型と性格の間に、どのような関係性があるのか調査することとした。

1. 2 研究の方法

(1) 進捗経緯

4～6月：調査内容の決定、具体化。

7～8月：調査票作成。

9～10月：最終討論、調査票完成。

11月：学内にて調査実施、集計、分析。

12月：調査、集計結果報告。

(2) 調査の概要

①調査の意図

血液型と性格・行動特徴との間に、ある種の関連があるという説は人々の間に広く浸透しているが、こうした説は、科学的に実証されていない「俗説」である。ところが、「俗説」であるにも関わらず、血液型と性格の関連を信じる人はいる。私は、その理由として少なからず、実生活の中でこれらの関連性が現れているからであると考えた。また、実生活の中で、これらの関連性がよく考えられるのが、恋愛している時である。

そこで、まず回答者の血液型を調べ、それから各血液型に対するイメージや、普段の回答者の行動特徴、また恋愛傾向について調べることで、血液型と性格の関連性について調査を進めた。

②主な質問項目

- ・ 血液型
- ・ 血液型と性格、行動特徴に関する設問
- ・ 恋愛傾向に関する設問
- ・ フェースシート

③調査対象者：文教大学生

④調査方法：授業中に紙面アンケートを配布し、回答してもらった。

⑤調査を実施した授業と回収数

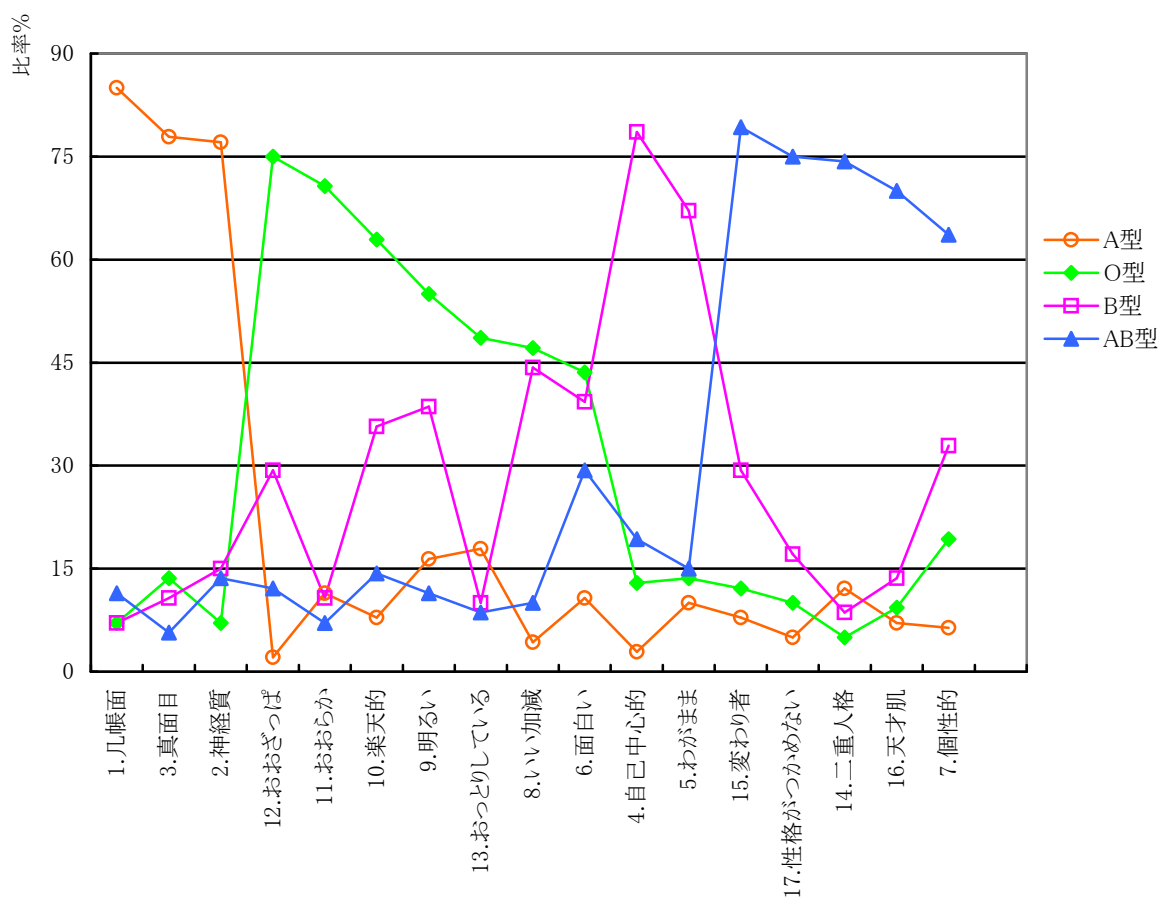
心理学特殊講義B	回収数 41	有効票 41	無効票 0
メディア産業論	回収数 101	有効票 99	無効票 2
計	回収数 142	有効票 140	無効票 2

1. 3 成果の概要

(1) 血液型と性格イメージ

本調査では、性格イメージとして17項目をあげ、「各血液型についてのイメージにあてはまると思うものすべてに○をつけてください」という設問を立てた。その結果、血液型に対応する性格イメージが大きく分かれていることがわかった。この結果を図1-3-1で表す。

図1-3-1 血液型と性格イメージ(n=140)



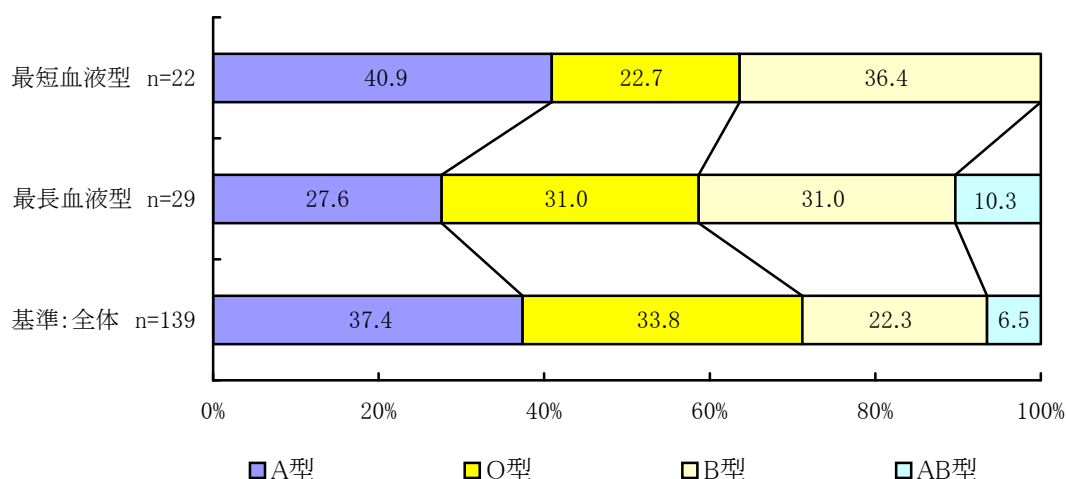
A型は几帳面・真面目・神経質など硬いイメージ、O型はおおらか・楽天的・おっとりしているなど柔らかなイメージ、B型は自己中心的・わがままなど利己本位なイメージ、A B型は変わり者・性格がつかめない・天才肌など個性的なイメージに集中している。

どの血液型についても、他の血液型と大きな差が現れている項目がいくつかあり、一定の性格イメージが浸透していると考えられる。また、今回の調査では、すべての血液型が同等の比率になる項目がなかった点からも、どの血液型にも共通して言える性格イメージは少ないと推測できる。

(2) 恋愛相性

本調査では、「あなたの血液型は何型ですか」、「今までで1番長い期間付き合ったのは何型の人ですか」、「今までで1番短い期間付き合ったのは何型の人ですか」という3つの設問を立てている。そこで、その結果の一部をA型の場合について、図1-3-2に示す。もしこれらの最短血液型、最長血液型が、血液型に依存しないとしたら、これらは全体の分布に近い分布をする筈である。そこで全体の分布を基準値として同図中に示している。そして基準と最短、最長の比率を比較すると、両者はそれぞれ基準からはかなり偏って分布をしていることが分かる。A型では最短は基準より+3.5%、最長は-9.8%ずれている。O型では最短は-11.1%、最長は-2.8%、B型では最短は+14.1%、最長は+7.7%である。この様に見てくると血液型の恋愛相性が存在しうることが理解される。

図1-3-2 A型の相性



その大筋は下記のようなものである。

- ① A-Aでは最短は基準に近いが、最長がかなり小さく、長続きしにくいことを示している。
- ② A-Oについては、最短は基準よりかなり小さく、短期カップルは成立しにくいことを示している。
- ③ A-Bでは長期、短期ともに基準より大きく、カップルが出来やすく、続きやすいことを示している。

そこでA型以外にもO型、B型について集計した結果を数値のみで表して、表1-3-1にまとめて提示する。色づけしてある箇所は、便宜上であるが絶対値で8%以上の値になっている欄である。

表 1-3-1 カップルにみる血液型分布の差

		A型	O型	B型	AB型
A型	最短	3.5	-11.1	14.1	-6.5
	最長	-9.8	-2.8	8.7	3.8
O型	最短	-24.9	22.5	2.7	-0.2
	最長	7.7	-4.2	-3.8	-2.8
B型	最短	6.4	-27.5	15.2	6.0
	最長	10.2	-10.0	-3.3	3.0

[単位：%]

この表から次のことを言うことが出来る。

- ①同じ血液型同士で恋人関係になった時、その関係が長く続くことは概して少ない。
- ②短期ではA-B、O-O、B-Bが起こりやすく、A-O、B-Oは起こりにくい。
- ③長期では、A-Bが起こりやすく、B-Oは起こりにくい。
- ④それぞれの恋愛相性の存在が暗示されており、「血液型と性格は関係ない」との一般的な命題が成立しない可能性もある。

(3) その他の主な結果

上記以外の主な調査結果としては、以下のものがあげられる。

- ・血液型をと性格になんらかの関連性があると考えている人ほど、性格判断や実生活の中で、血液型を他人の判断基準として利用している
 - ・女性のほうが血液型を性格判断の基準にしやすい
 - ・血液型別にみる性格イメージと実性格では、異なる点もあるが一致する点もある
- これらの結果の詳細については、このあとに続く、第2章をみていただきたい。

[謝辞]

本研究においては、調査の実施に際し、多くの学生諸氏から回答をいただきました。この調査協力に対しては心から御礼を申し上げる次第であります。調査票を作成するまでの過程では、ゼミのメンバーをはじめとして、多くの方から意見をいただきました。また、研究の実施全般に対しては、指導教授の八ツ橋先生から様々な意見をいただきました。これらの皆さんに対して、改めて謝意を表します。

第2章 研究の成果

2.1 回答者の概要

調査は大学の2年生および3年生の2つの授業クラスの協力を得て行った。したがって回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。

表2-1-1の学年別の分布では、1年0.0%(0人)、2年27.9%(39人)、3年60.0%(84人)、4年11.4%(16人)、その他0.7%(1人)となっている。母集団に比べ、3年の割合がかなり高く、4年の割合が低めである。

また表2-1-2の性別の分布では、男子55.7%(78人)、女子44.3%(62人)となっており、母集団に比べると女子の割合が高くなっている。

これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表 2-1-1 回答者と母集団の比較

	1年	2年	3年	4年	その他	計
回答者	0.0 (0)	27.9 (39)	60.0 (84)	11.4 (16)	0.7 (1)	100.0 (140)
情報学部 学生	25.6 (515)	23.6 (475)	23.2 (466)	27.6 (555)	— (—)	100.0 (2011)

(注) 母集団は情報学部 2007.10 末時点である

表 2-1-2 回答者と母集団の比較

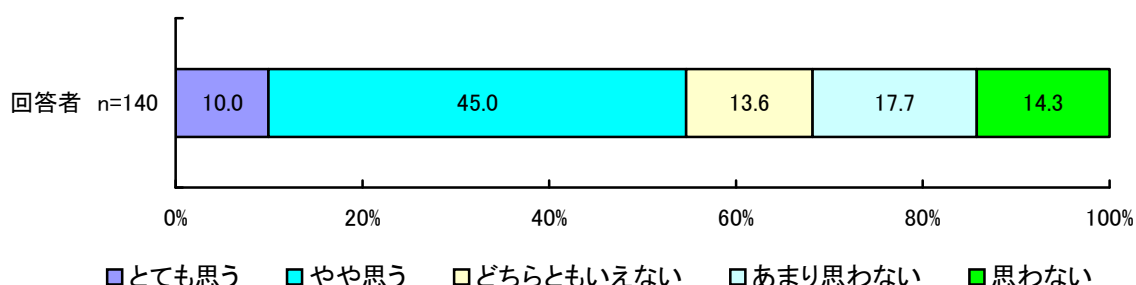
	男子	女子	計
回答者	55.7 (78)	44.3 (62)	100.0 (140)
情報学部 学生	68.7 (1381)	31.3 (630)	100.0 (2011)

(注) 母集団は情報学部 2007.10 末時点である

2. 2 血液型性格判断の利用状況

本調査では、「血液型と性格になんらかの関連性があると思いますか」と質問し、5段階の選択肢「1.とても思う」、「2.やや思う」、「3.どちらともいえない」、「4.あまり思わない」、「5.思わない」で回答を得ている。回答は「1.とても思う」から「2.やや思う」までが55%（77人）、「3.どちらともいえない」から「5.思わない」までが45%（63人）である。（図2-2-1）そこで、この回答を用いて、前者を血液型性格の信用グループ、後者を非信用グループと呼ぶ。

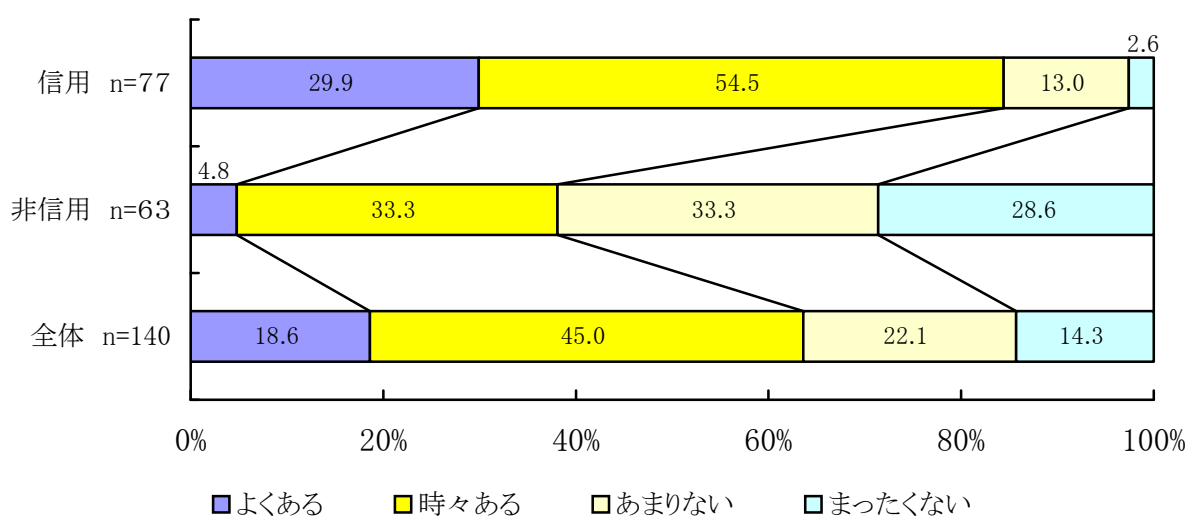
図2-2-1 血液型と性格の関連性の考え



(1) 血液型性格判断の適用

血液型と性格になんらかの関連性があると考えている人は、考えていない人に比べ、より血液型で他人の性格を判断することがあるのではないのだろうか。そこで血液型性格判断の有無について、設問の回答を上記の2グループ毎に集計した結果を図2-2-2に表す。

図2-2-2 血液型性格判断 (χ^2 乗: p=0.000)



全体では、約 64%の人が血液型で他人の性格を判断することが、よくある・時々あると回答し、半数以上が血液型で性格判断しているという結果が出た。

グループ別にみると、信用グループでは、血液型で他人の性格を判断することが、よくある・時々あると回答している人は約 84%であり、非信用グループの 2 倍以上となっている。このことから、血液型と性格に関連性があると考えている人は、血液型性格判断する割合が非常に高いことがわかる。

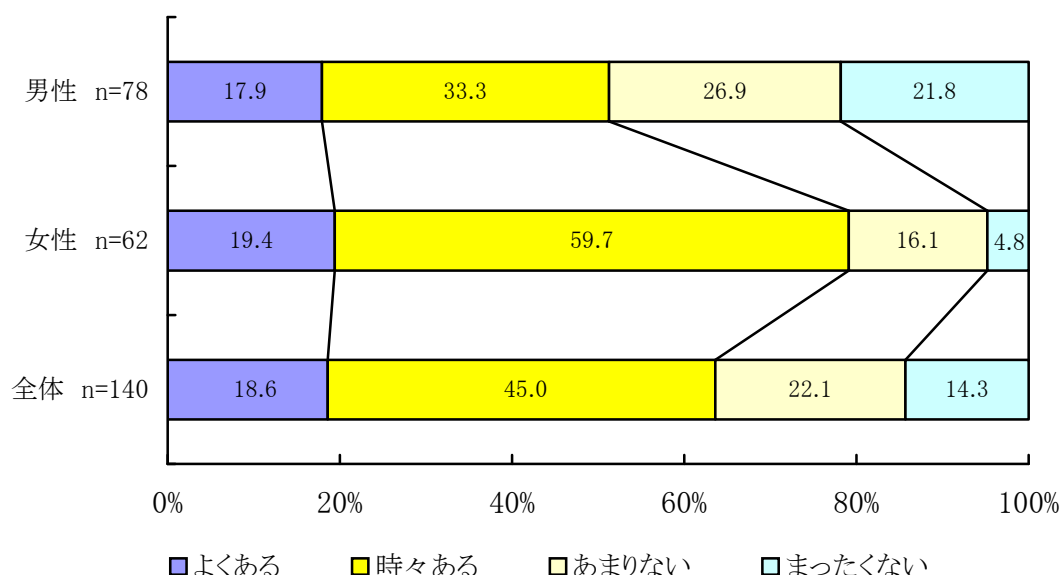
また非信用グループでは、血液型で性格判断をすることが、あまりない・まったくないと回答している人が約 62%と半数以上を占めており、信用グループとは逆の結果となった。

これらのことから、血液型と性格になんらかの関連性があると考えている人ほど、実生活の中でも血液型判断を気にしていると推測できる。

(2) 血液型性格判断の性差

次に、血液型性格判断における性差をみてみる。この結果を図 2-2-3 に示す。

図2-2-3 血液型性格判断と性別 (χ^2 乗: $p=0.003$)



全体では、よくある・時々あると回答している人が約 64%と半数以上を占めている。

性別では、男女ともに、よくあると回答している人の割合はほとんど変わらない。しかし、時々あるの回答では性別で大きな差が現れた。男性では 33%であるのに対し、女性は

60%となっており、男性の約 1.8 倍の女性が時々あると回答していることがわかる。

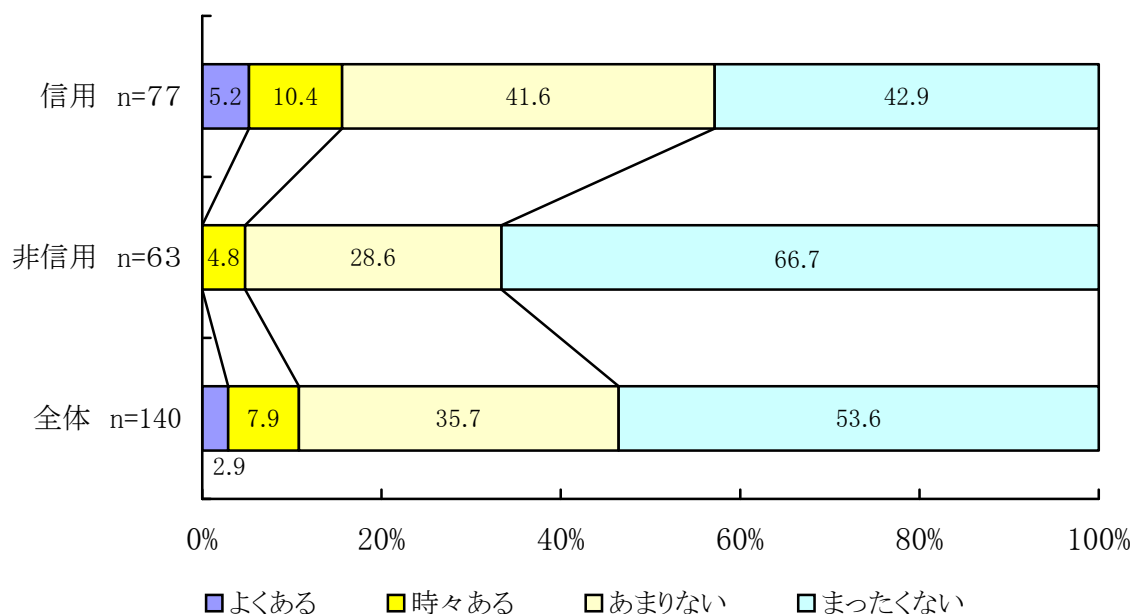
逆に、あまりない・まったくないの回答については男性の方が高い割合になっている。男性では約 5 割の人が、あまりない・まったくないと回答しているのに対し、女性で、あまりない・まったくないと回答しているのは 2 割程度である。

これらのことから、男性よりも女性の方が血液型を実利用する確率が高いといえる。

(3) 血液型性格判断の実利用

それでは、この 2 つのグループにおいて、部活などの役割分担を考える時、血液型適性を考えるかどうか、という点についてはどうなのだろうか。この結果を図 2-2-4 に表す。

図2-2-4 血液型適性判断 (χ^2 乗:p=0.019)



どちらのグループも、あまりない・まったくないと回答している人が圧倒的に多い。

しかし、非信用グループではよくあると回答した人がいなかったのに対して、信用グループではよくあると回答した人は約 5%いることがわかる。また、時々あると回答した人も、信用グループでは、非信用グループの 2 倍以上の回答率になっている。

また、よくある・時々ある・あまりないの項目についてはすべて信用グループの方が回答率が高い。ところが、まったくないの項目だけは非信用グループの回答率の方が高くな

っており、信用グループのおよそ 1.5 倍になっていることがわかる。

つまり、これらの結果からも血液型と性格に関連性があると考えている人ほど、実生活において実利を伴って血液型判断を利用していると考えられる。

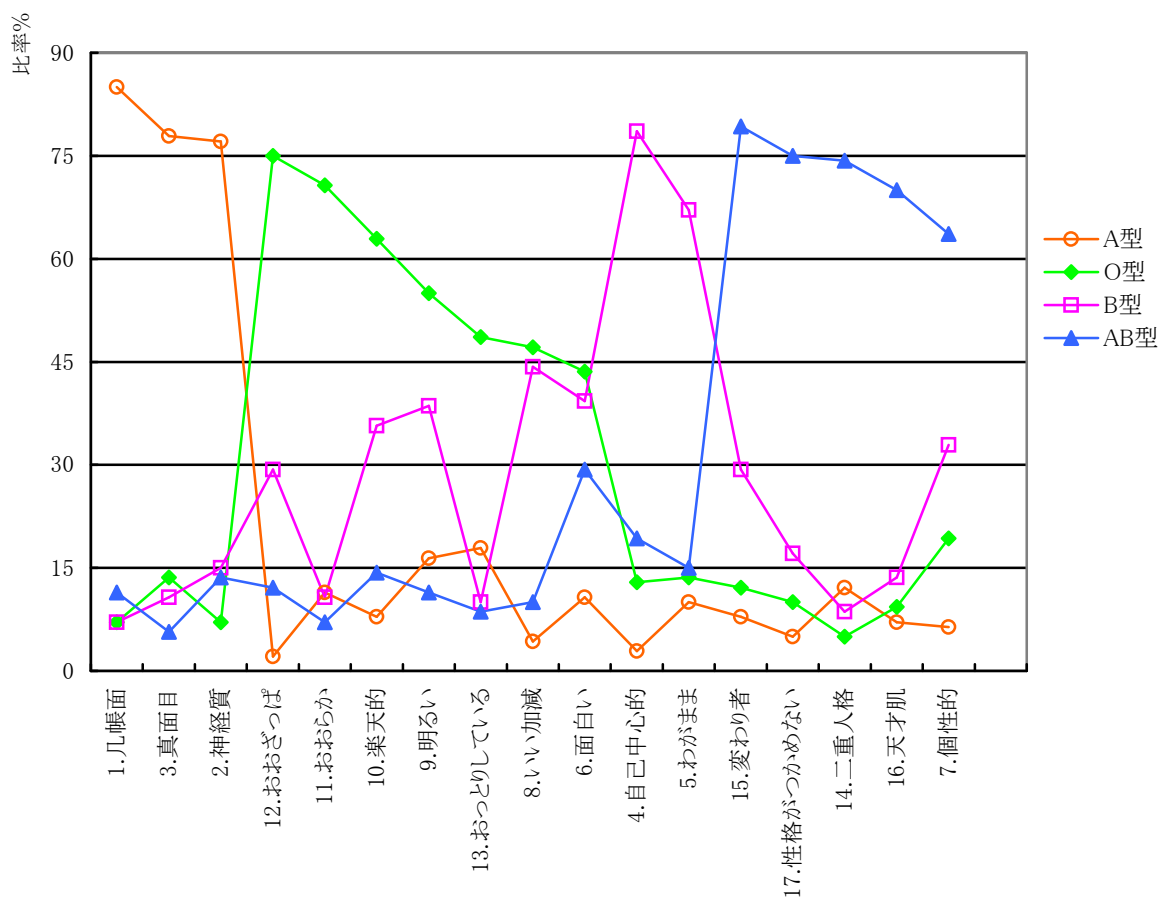
2. 3 血液型と性格

血液型と性格の間には、実際に関連性があるのだろうか。そこでこの項目では、血液型に対応する性格イメージと実性格を照らし合わせて検証を進める。

(1) 血液型と性格イメージ

この調査結果においては、血液型に対応する性格イメージが大きく分かれていることがわかった。その結果を図 2-3-1 で表す。

図2-3-1 血液型と性格イメージ(n=140)



他の血液型と大きな差が現れているのは、A型では「几帳面」「神経質」「真面目」の3

項目。O型では「明るい」「楽天的」「おおらか」「おおざっぱ」「おっとりしている」の5項目。B型では「自己中心的」「わがまま」の2項目。AB型では「個性的」「二重人格」「変わり者」「天才肌」「性格がつかめない」の5項目となっている。

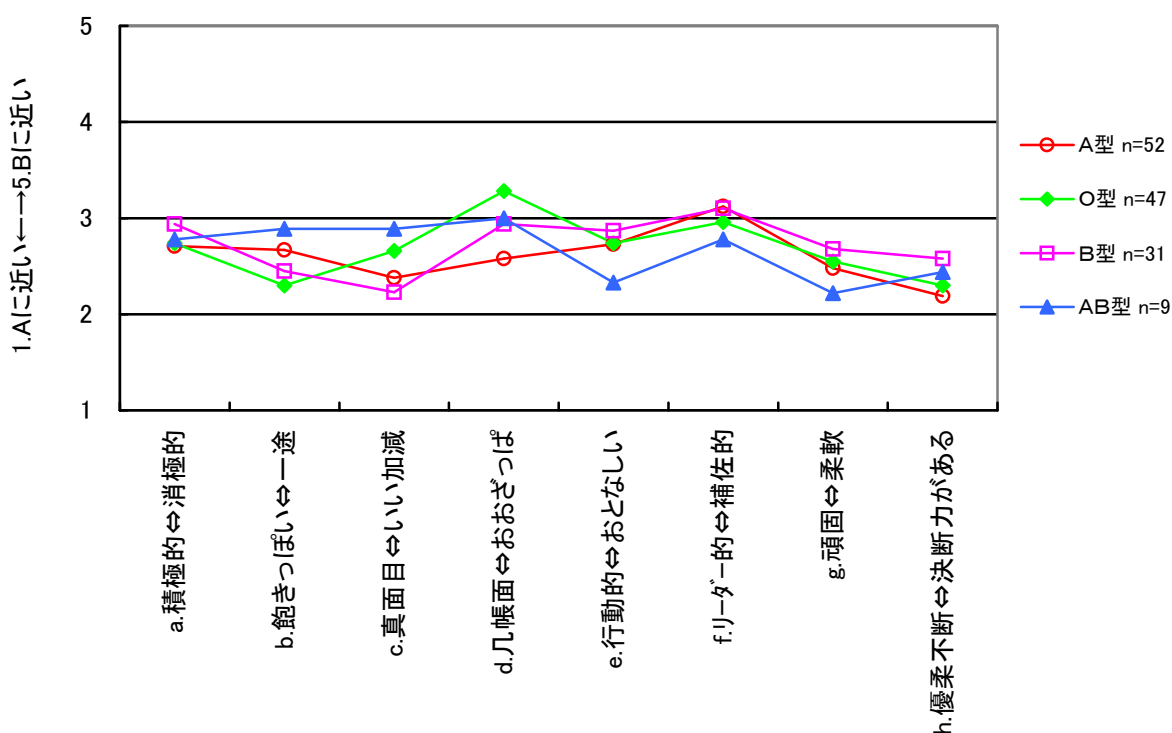
この結果からもわかるように、どの血液型についても、一定の性格イメージが浸透していると考えられる。また、すべての血液型が同等の比率になる項目がなかった点から、どの血液型にも共通して言える性格イメージは少ないと推測できる。

(2) 血液型と実性格

次に、血液型に対応する実性格についての結果を図2-3-2に表す。

本調査では、「あなたは周りの人(友人や家族など)に、どのような性格だとよく言われますか」と質問し、「1.Aに近い」、「2.ややAに近い」、「3.どちらともいえない」、「4.ややBに近い」、「5.Bに近い」の5段階の選択肢で回答を得ている。性格A群は、「a.積極的」、「b.飽きっぽい」、「c.真面目」、「d.几帳面」、「e.行動的」、「f.リーダー的」、「g.頑固」、「h.優柔不断」、性格B群は「a.消極的」、「b.一途」、「c.いい加減」、「d.おおざっぱ」、「e.おとなしい」、「f.補佐的」、「g.柔軟」、「h.決断力がある」となっている。

図2-3-2 血液型と実性格



どの項目においても、比較的A群よりの回答となっている。その中でも、差が現れているのが、b、c、d、eの4項目である。

項目bは、他の項目と比べて均等にばらついているのがわかる。実性格で最も飽きっぽい（A群）と考えられるのはO型、そしてB型、A型と続き、4つの血液型の中で1番一途であるのはAB型であるという結果となった。

項目cでは、最もA群（真面目）寄りであったのがB型、次いでA型、O型となっており、最もB群（いい加減）寄りであると回答したのがAB型だった。

項目dで、最もA群（几帳面）寄りであると回答したのはA型であり、次いでB型、AB型となっており、最もB群（おおざっぱ）寄りだったのはO型であった。

項目eについては、AB型が群を抜いて行動的（A群）であるという結果になり、他の血液型においては大きな差は見られなかった。

（3）性格イメージと実性格の比較

血液型に対応する性格イメージと実性格を比較してみると、真面目、いい加減、几帳面、おおざっぱの項目において、一致・差異が見られた。

性格イメージでは、A型は真面目という回答率が非常に高かった。実性格では、B型が最も真面目に近い回答が出ているが、それに次いで、大差なくA型も真面目であるという回答が得られた。B型については、真面目という性格イメージはAB型に次いで下から2番目の回答率であり、性格イメージと実性格の結果は異なっている。

いい加減の項目では差異が見られた。性格イメージでは、O型が最も高い回答率であり、次いでB型、AB型、A型という結果であった。しかし、実性格では、AB型が最もいい加減であるという結果となった。その次にO型となっており、次いでA型、B型であった。この項目については、性格イメージと実性格において相違があるようである。

それでは次に、几帳面の項目を比較してみる。性格イメージではA型が群を抜いて、他の血液型より几帳面であるという結果であった。また、実性格においてもA型が最も几帳面に近い回答となり、性格イメージと実性格において一致が見られた。

几帳面とは反対のおおざっぱの項目でも、性格イメージと実性格で一致をみることができた。O型が性格イメージにおいても、実性格においても、最もおおざっぱであるという結果になっている。

これらのことから、血液型と性格の間には少なからずの関連性があるように思われた。

血液型によって、周囲の人が考えている性格イメージと、本人が感じている性格では、異なる点もあったが、実際に一致する面もあるということがわかる。科学的には、血液型と性格の関連性は実証されておらず、無関係であると言われている。しかし、この調査結果からもわかるように、血液型と性格にまったくもって関連性がないとは言い切れないのではないのだろうか。

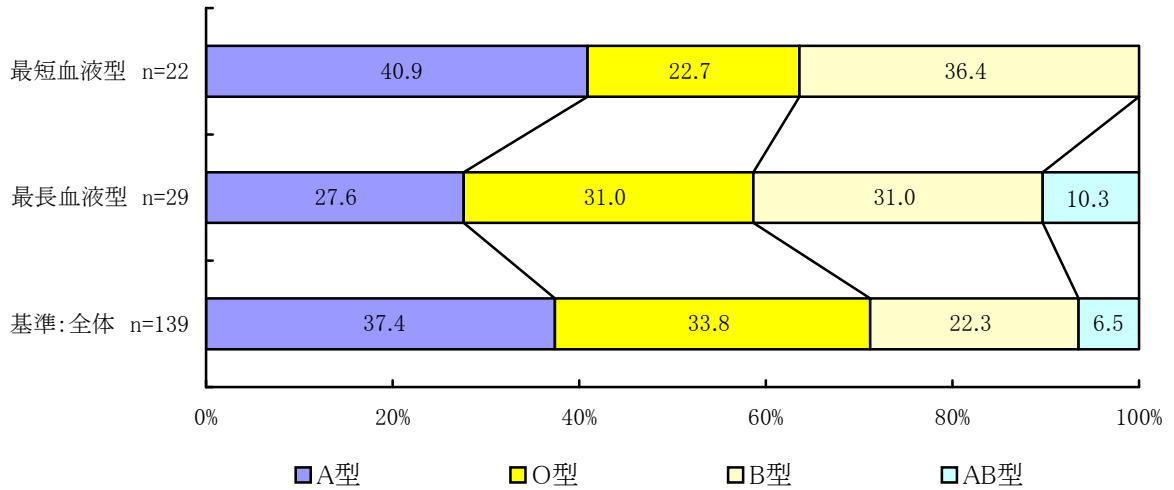
2. 4 恋愛にみる血液型相性

血液型判断を実際の生活でよく利用するものとして考えられるのが、恋愛に関することではないだろうか。そこで、血液型別に「今までで1番長い期間付き合った人の血液型」(最長血液型と示す)、「今までで1番短い期間付き合った人の血液型」(最短血液型と示す)の結果を図2-4-1~2-4-3で表す。この結果から、各血液型の恋愛傾向を見ることによって、血液型相性を見てみる。本調査では、恋愛をしたことがあると回答した人は90%(126人)であった。なお、AB型については標本数が少なく、その結果から述べられることが少ないため、割愛した。

(1) A型

ここではA型の回答者の最短血液型の分布と最長血液型の分布、それに基準値として標本全体の血液型の分布の3つのグラフを図2-4-1に示している。もし血液型と性格が関係ないとすると、最短血液型も最長血液型も分布には差が生ずることはなく、分布そのものは「回答者の恋愛対象となる世代の血液型の分布」と一致することになるはずである。しかし「回答者の恋愛対象となる世代の血液型の分布」は実際には測定不能であるので、ここではその分布の代用として、回答者全体の分布を基準値として利用することとする。

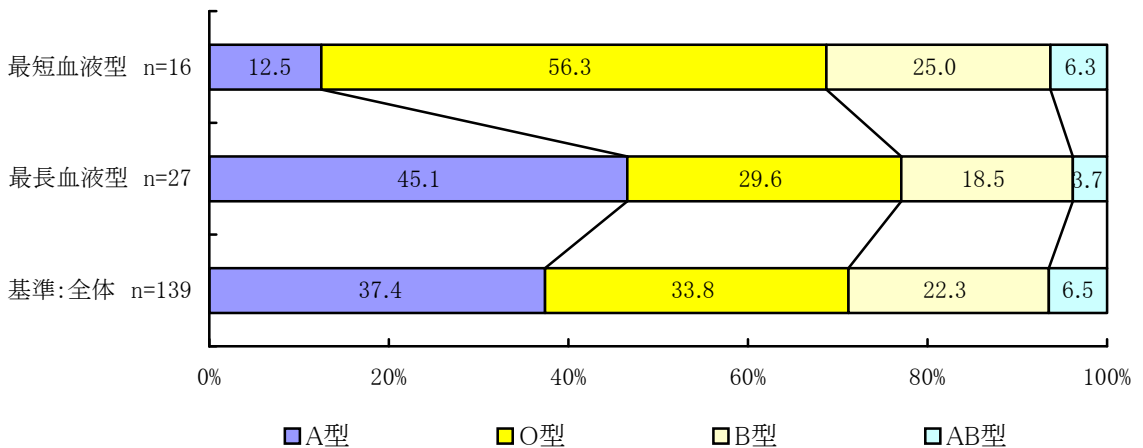
図2-4-1 A型の相性



最短血液型ではA型は+3.5%、O型は-11.1%、B型は+14.1%、AB型は-6.5%であり、O型との相性は良くないが、B型とはよいことがわかる。次に最長血液型を見ると、A型は-9.8%、O型は-2.8%、B型は+8.7%、AB型は+3.8%であり、A型との相性は良くないが、B型とはよいことがわかる。この結果から、A型同士では、その付き合いが長く続くことは少ないが、O型、B型とではその確率は低くなると考えられる。また、A型と相性良い血液型は最長血液型の割合が多い、B型とO型であるといえる。

(2) O型

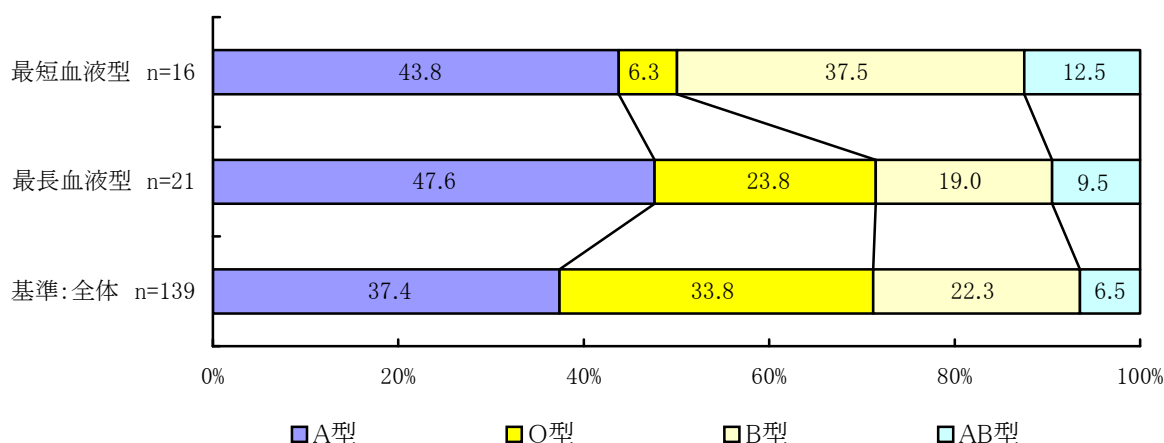
図2-4-2 O型の相性



最短血液型ではA型は-24.9%、O型は+22.5%、B型は+2.7%、AB型は-0.2%であり、A型との相性はよくないが、O型とはよいことがわかる。最長血液型をみると、A型は+7.7%、O型は-4.2%、B型は-3.8%、AB型は-2.8%であり、O型との相性はよくないが、A型とはよいことがわかる。これらのことから、O型の人とA型の人と付き合うと長く続く可能性は高いが、O型の人と恋人関係になっても、その付き合いが長く続くことは少ないと推測できる。また、O型と相性が良い血液型は、最長血液型の回答率が最も多いA型であるといえる。

(3) B型

図2-4-3 B型の相性



最短血液型ではA型は+6.4%、O型は-27.5%、B型は+15.2%、AB型は+6.0%であり、O型との相性はよくないが、B型とはよいことがわかる。最長血液型をみると、A型は+10.2%、O型は-10.0%、B型は-3.3%、AB型は+3.0%であり、O型との相性はよくないが、A型とはよいことがわかる。この結果から、B型においても、同じ血液型の人と恋人関係になるとその付き合いは短くなりやすいと考えられる。また、B型と相性が良い血液型は、最長血液型の回答率が最も高いA型であるといえる。

(4) まとめ

上記3つの血液型からみる血液型相性では、自分とは違う血液型の人と恋人関係になるとその付き合いは比較的長く続き、逆に、同じ血液型の人と恋人関係になっても、その付

き合いはあまり長く続かないことがわかる。また、相性の良い血液型はA型×O型とA型×B型であると考えられる。

表 2-4-4 は、それぞれの結果から、対応する全体の血液型の差を表したものである。よって、プラスの値であれば全体の血液型よりも割合が高く、マイナスの値であれば全体の血液型よりも割合が低いということになる。なお、色づけしてある箇所は、便宜上ではあるが絶対値で8%以上の値になっている欄である。

表 2-4-4 カップルにみる血液型分布の差

		A型	O型	B型	AB型
A型	最短	3.5	-11.1	14.1	-6.5
	最長	-9.8	-2.8	8.7	3.8
O型	最短	-24.9	22.5	2.7	-0.2
	最長	7.7	-4.2	-3.8	-2.8
B型	最短	6.4	-27.5	15.2	6.0
	最長	10.2	-10.0	-3.3	3.0

[単位：%]

A型の最短の欄を縦に見た時、その値をすべて合計すると-15になる。最長の場合は8.1となる。同じようにしてO型を見ると、最短は-16.1、最長が-17.0。B型では、最短が32.0、最長が1.6。AB型は、最短が-0.7、最長が4.0となっている。これらの値を比較すると、B型だけが最短でプラスの値(32.0)を出しており、最長ではA型が8.1で最も多くなっているのがわかる。このことから、B型は付き合う期間が短くなりやすく、逆にA型は長くなりやすいと考えられる。O型に関しては、最短と最長に大きな差は現れなかったため、長くもなるし、短くなることもありえるといえる。この結果から、付き合う期間が短くなりやすい血液型の順番は、B型>AB型>A型>O型となり、付き合う期間が長くなりやすい順番は、A型>AB型>B型>O型となる。

第3章 まとめと今後の課題

この調査で、血液型と性格になんらかの関連性があると思っている人は、5割以上いることがわかった。血液型と性格の関連性に関しては、俗説であるにも関わらず、半数以上の人になんらかの関係性があると考えているというのには、驚いた。また、そのように考えている人ほど、やはり血液型性格判断や血液型適性判断をしやすいという結果もでてくる。また、各血液型に対するイメージは、それぞれ固定されていることもわかった。よく世間で言われているような性格が、各血液型に顕著に現れているように感じる結果であった。

A型については、几帳面・真面目・神経質というイメージがあるが、回答者の周囲の人も、やはりそう感じているようで、真面目といい加減だったら真面目、几帳面とおおざっぱだったら几帳面と回答している人のほうが多かった。また、消極的な性格であるという仮説が立っていたが、積極的と消極的だったら積極的と回答している人が多かった。また、公共の交通機関で自分の前にお年寄りが立っている時どうするか、という質問に対しては、他の血液型に比べて譲ると回答した人が最も多く、8割以上が譲ると答えていた。このような結果から考えても、A型は消極的ではなく積極的であるといえると思った。

O型については、明るい・楽天的・おおらか・おおざっぱというイメージが半数以上の票を得ていた。O型の周囲の人に関しても、A型と同じように、これらのイメージを実際の生活で感じているようだ。几帳面とおおざっぱでは、他の血液型の倍近くの人がおおざっぱと回答したという結果になっている。また、楽天的であるせいか、今までに交際中に浮気をしたことがあるか、という質問では他の血液型と比べて、最も多くの人が「はい」と回答している。

B型については、自己中心的・わがまま・いい加減など悪い性格のイメージが多いようだった。しかし、B型の周囲の人は、あまりそう感じていないような結果であり、ここで矛盾が起こっている。また、B型は頑固だと感じる結果が出ている。たとえば、誰かとけんかしたとき、自分が悪くないと思った場合、あなたはどうすることが多いですか、という質問に対する結果では、「自分から謝る」と回答した人は1割強しかおらず、他の血液型と比べると約2分の1から3分の1の回答率しか得られなかった。他にも、友人の代わりにバイトにでるか、という質問では「代わらない」と回答した人が最も多いのがB型であった。このような点からもB型はあまり良いイメージがないのかもしれない。

AB 型については、個性的・二重人格・変わり者・天才肌・性格がつかめないというイメージが強いようだった。しかし、AB 型は、もともと回答者数が少ないこともあり、うまく調査結果を出すことが出来なかったが、A 型と B 型が合わさった血液型であるため、A 型と B 型の性格をあわせたような結果が出ているように感じた。このような点からも、AB 型には上にあげたようなイメージが多いのかもしれない。

恋愛にみる血液型相性においては、同じ血液型より違う血液型の方が相性が良い（付き合った時に長く続く）という結果を出すことができた。また、本調査から相性の良い血液型がわかった。世間では、最も相性が悪いと言われている「A型×B型」が、今回の調査では、相性が良い血液型であるという結果にたどりついた。実際に付き合ったA型とB型の人が回答している結果であるので、この血液型相性は世間一般で言われているほど悪くないということができるだろう。

これらのこともふまえ、本調査では血液型と性格の関連性について、これら2つがまったく無関係であるとは言いがたい結果になったと思われる。もっと多くの標本を集め、さらなる関連性を主張していけたらよいと思う。

今回の調査における反省点は、回答者の血液型に差がありすぎたことがあげられる。もともと、日本人はA型>O型>B型>AB型という割合で血液型が存在していると言われている。今回の調査でも回答者の血液型の割合はA型>O型>B型>AB型となっており、仕方ないとも思えるが、もう少しAB型の回答者がほしかった。今回の調査の仕方では、血液型を平等にすることが難しかった。

調査票については、何度も討論を重ねて作成したが、複数回答で必要だったと考えられる選択肢の抜けや、性格イメージと実性格の項目の不一致など、調査後に改善点が見られたところもあった。今後、調査をする機会がある時には、今回以上に細かいところまで注意しながら調査票を作成していくべきだと思った。

参考文献

- ・ 丹治哲雄（編）1993 『「血液型と性格」に関する社会心理学的研究』 文教大学
- ・ 草野直樹 2001 『血液型性格判断のウソ・ホント』 かもがわ出版
- ・ 鈴木芳正 1973 『A型人間—血液型による性格判断—』 産心社
- ・ 能見俊賢 2001 『【血液型】気になる相性 秘密辞典』 青春出版社
- ・ 鈴木乙史、清水弘司、松井豊（編）1986 『パッケージ・性格の心理⑥性格の理解と把握』（大村政雄 血液型と性格 pp.212～pp.230） ブレーン出版
- ・ 能見俊賢 2006 『ズバリわかる！血液型性格 BOOK』 西東社
- ・ G・ダビデ研究所 2005 『何でこんなに当たるの？ 最強！血液型行動学入門。』 主婦の友社
- ・ 松田薫 1991 『「血液型と性格」の社会史』 河出書房新社
- ・ 鈴木芳正 1993 『新・A型人間』 産心社
- ・ 鈴木芳正 1993 『新・O型人間』 産心社
- ・ 鈴木芳正 1993 『新・B型人間』 産心社
- ・ 鈴木芳正 1993 『新・AB型人間』 産心社

血液型に関する調査

情報学部広報学科3年 八ツ橋ゼミ 松崎宏美

【調査対象層:文教大学生】

【回収数:142枚、有効回収数:140枚】

問1. あなたの血液型は何型ですか。(1つに○) n=140

1. A型 37.1 2. O型 33.6 3. B型 22.1 4. AB型 6.4 5. わからない 0.7

問2. あなたは周りの人(友人や家族など)に、どのような性格だとよく言われますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目1つに○) n=140

【性格 A】	Aに近い	やや Aに近い	どちらとも いえない	やや Bに近い	Bに近い	【性格 B】	無回答
a. 積極的	15.0	27.9	29.3	21.4	6.4	消極的	
b. 飽きっぽい	24.3	31.4	22.1	12.9	8.6	一途	0.7
c. 真面目	20.7	37.9	20.0	16.4	5.0	いい加減	
d. 几帳面	14.3	28.6	21.4	22.1	12.9	おおざっぱ	0.7
e. 行動的	16.4	28.6	27.9	20.0	7.1	おとなしい	
f. リーダー的	10.0	21.4	35.0	23.6	10.0	補佐的	
g. 頑固	22.9	27.1	31.4	12.1	6.4	柔軟	
h. 優柔不断	24.3	37.1	22.9	10.7	5.0	決断力がある	

問3. 血液型と性格になんらかの関連性があると思いますか。(1つに○) n=140

1. とても思う 10.0 2. やや思う 45.0 3. どちらとも言えない 13.6 4. あまり思わない 17.1 5. 思わない 14.3

問4. 血液型で他人の性格を判断することがありますか。(1つに○) n=140

1. よくある 18.6 2. 時々ある 45.0 3. あまりない 22.1 4. まったくない 14.3

問5. 部活などで役割分担を考える時に、血液型適性を考えることはありますか。(1つに○) n=140

1. よくある 2.9 2. 時々ある 7.9 3. あまりない 35.7 4. まったくない 53.6

問 6.各血液型についてのイメージにあてまると思う項目の番号すべてに○をつけてください。 n=140

	1. 几 帳 面	2. 神 経 質	3. 真 面 目	4. 自 己 中 心 的	5. わ が ま ま	6. 面 白 い	7. 個 性 的	8. い い 加 減	9. 明 る い	10. 楽 天 的	11. お お ら か	12. お お ざ っ ぱ	13. お っ と り し て い る	14. 二 重 人 格	15. 変 わ り 者	16. 天 才 肌	17. 性 格 が つ か め な い	無 回 答
a.A 型	85.0	77.1	77.9	2.9	10.0	10.7	6.4	4.3	16.4	7.9	11.4	2.1	17.9	12.1	7.9	7.1	5.0	4.3
b.O 型	7.1	7.1	13.6	12.9	13.6	43.6	19.3	47.1	55.0	62.9	70.7	75.0	48.6	5.0	12.1	9.3	10.0	4.3
c.B 型	7.1	15.0	10.7	78.6	67.1	39.3	32.9	44.3	38.6	35.7	10.7	29.3	10.0	8.6	29.3	13.6	17.1	5.7
d.AB 型	11.4	13.6	5.7	19.3	15.0	29.3	63.6	10.0	11.4	14.3	7.1	12.1	8.6	74.3	79.3	70.0	75.0	5.0

問 7.今までに人の上に立つ役目(学級委員・部長・キャプテンなど)についたことがありますか。(1つに○) n=140

1. よくある 30.7 2. 時々ある 49.3 3. あまりない 12.1 4. まったくない 7.9

問 8.友人や家族などとけんかしたとき、自分が悪いと思った場合、あなたはどうすることが多いですか。

(1つに○) n=140

1. 自分から謝る 87.1 2. 自分からは謝らない 12.9

問 9. 友人や家族などとけんかしたとき、自分が悪くないと思った場合、あなたはどうすることが多いですか。

(1つに○) n=140

1. 自分から謝る 26.4 2. 自分からは謝らない 73.6

問 10.初対面の人と接するとき、あなたはどうすることが多いですか。(1つに○) n=140

1. 積極的に自分から話しかける 62.9 2. 相手から話かけてくれるのを待つ 37.1

問 11.公共の交通機関で自分の前にお年寄りが立っている時、あなたはどうすることが多いですか。

(1つに○) n=140

1. 進んで席を譲る 37.1 2. 他の人が席を譲らなさそうなら譲る 42.1
3. 席を譲りたいけど譲れない 17.1 4. 絶対に席を譲らない 3.6

問 12.特に予定の入っていない日に、友人に「自分の代わりに今日のバイトに出てほしい」といわれたとき、あなたは**どうすることが多い**ですか。(1つに○) n=140

1. 快く代わる 46.4 2. 渋々代わる 31.4 3. 代わらない 22.1

問 13.すでに予定が入っている日に、友人に「自分の代わりに今日のバイトに出てほしい」といわれたとき、あなたは**どうすることが多い**ですか。(1つに○) n=140

1. 快く代わる 5.0 2. 渋々代わる 10.0 3. 代わらない 85.0

《ここからはあなたの恋愛についてお聞きします》

問 14.あなたは今までに恋をしたことがありますか。(1つに○) n=140

1. はい 90.0 2. いいえ ⇒ 問 25 へ 10.0

問 15.(カップルになるならない関係なく)あなたが今までに好きになった人で最も多い血液型を教えてください。(1つに○) n=126

1. A型 25.4 2. O型 19.8 3. B型 15.9 4. AB型 2.4 5. わからない 35.7

無回答
0.8

問 16.あなたは今までに恋人がいたことがありますか。(1つに○) n=126

1. はい 81.0 2. いいえ ⇒ 問 25 へ 19.0

問 17.今までにあなたの恋人になった人で最も多い血液型を教えてください。(1つに○) n=102

1. A型 33.3 2. O型 24.5 3. B型 12.7 4. AB型 2.9 5. わからない 26.5

問 18.今までで1番長い期間付き合ったのは何型の人ですか。(1つに○) n=102

1. A型 35.3 2. O型 23.5 3. B型 19.6 4. AB型 5.9 5. わからない 15.7

問 19.今までで1番短い期間付き合ったのは何型の人ですか。(1つに○) n=102

1. A型 19.6 2. O型 15.7 3. B型 17.6 4. AB型 2.9 5. わからない 43.1

無回答
0.1

問 20.あなたは今までに、交際中に浮気をしたことがありますか。(1つに○) n=102

1. はい 12.7 2. いいえ ⇒ 問 22 へ 87.3

問 21.その浮気は恋人にバレましたか。(1つに○) n=13

1. バレた 15.4	2. おそらくバレていた 38.5
3. おそらくバレていない 23.1	4. 絶対にバレていない 15.4

無回答
7.7

問 22.あなたは、交際中に浮気されたことはありますか。(1つに○) n=102

1. ある 13.7	2. おそらくある 4.9	3. おそらくない 56.9	4. 絶対ない 23.5
------------	---------------	----------------	--------------

無回答
1.0

問 23.恋人と別れる際、あなたは振るのと振られるのではどちらが多いですか。(1つに○) n=102

1. 振る 32.4	2. 振られる 25.5	3. どちらも同じくらい 32.4	4. どちらもない 9.8
------------	--------------	-------------------	---------------

問 24.次の項目の中で、過去の恋人と別れた原因となったと思うものすべてに○をつけてください。 n=92

1. 性格があわなかったから 49.0	2. 生活のリズムがあわなかったから 36.5
3. 血液型の相性が悪かったから 2.1	4. 親に反対されたから 2.1
5. 浮気をした、またはされたから 9.4	6. (どちらかが、またはお互いに)冷めたから 38.5
7. (どちらかに、またはお互いに)他に好きな人が出来たから 25.0	

無回答
3.1

《ここからは全員にお聞きします》

問 25.あなたの性別は。(1つに○) n=140

1. 男 55.7	2. 女 44.3
-----------	-----------

問 26.あなたの学年は。(1つに○) n=140

1. 1年 0.0	2. 2年 27.9	3. 3年 60.0	4. 4年 11.4	5. その他 0.7
-----------	------------	------------	------------	------------

問 27.あなたの学科は。(1つに○) n=140

1. 広報 98.6	2. 経営情報 0.7	3. 情報システム 0.7
4. 国際関係 0.0	5. 国際コミュニケーション 0.0	6. その他 0.0